

スマート家具・家電の普及に関する研究

～購入障壁と課題～

渡辺悠希

指導教員 小谷浩二

研究背景

近年、IoT 技術の発展により、スマート家具・家電は一般家庭においても利用されるようになりつつある。一方で、その導入に際しては、価格の高さやセキュリティへの不安、操作の難しさといった障壁が存在することも指摘されている。既存研究では、製品に搭載される各種技術の特徴、IoT セキュリティの懸念、スマート家具・家電の利便性について、多くの分析が行われて来た。しかし、家庭や経済性等の生活に関するどのような要因が導入意欲を高めるのか、分析している研究は限定的である。

研究目的

本研究は、スマート家具・家電の導入意欲が、「価格に対する不安」「日常の家事負担」「年収」といった生活要因によってどのように規定されるのかを明らかにする事を目的とする。

研究方法

本研究では、一般消費者対象のアンケート調査 109 名分の回答のうち、欠損のない 95 名の有効回答を用いて分析を行った。アンケートでは、個人属性、家事負担、スマート家具・家電に対する印象や不安、利用状況、導入意欲などを測定した。導入意欲は 5 段階尺度で数値化し、家事負担、年収、価格に対する不安を主要な説明変数として設定した。性別、年齢、居住形態を統制変数とし、線形回帰分析によって導入意欲との関係を検証した。

分析結果

分析の結果、日常的に家事を主に担っている人、年収が高い人程導入意欲が上昇する傾向が確認された。一方で、価格に対する不安や性別については、導入意欲との間に有意な関連は認められなかった。年齢や居住形態を統制変数として加えた場合でも結果は概ね維持されており、導入意欲は価格イメージよりも、家事負担や支払い能力といった生活背景によって左右される事が明らかになった。

考察・結論

本研究は、スマート家具・家電の導入意欲が、家事負担及び年収といった生活上の要因によって強く規定されている事を明らかにした。特に、日常的に家事を担う人程導入意欲が高い点から、生活負担の軽減が導入の主要な動機となっている可能性が示唆される。一方で、価格に対する印象や性別の影響は限定的であった。